

秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料

仙台管区气象台
地域火山監視・警報センター

＜噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）が継続＞

秋田駒ヶ岳では、3月6日から低周波地震の発生が続いており、火山活動の高まりを示している可能性があることから、今後の火山活動に関する情報に留意してください。

なお、^{めだけ}女岳周辺では地熱活動が続いており、火山性地震の増加が時々みられますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・地震や微動の発生状況（図1、図2-②～④）

秋田駒ヶ岳では、低周波地震¹⁾が2月16日に1回発生した後、3月6日から本日（12日）まで、合計6回発生しました。秋田駒ヶ岳で低周波地震が観測されたのは、2015年4月6日以来です。低周波地震は概ね振幅の小さいもので、震源はいずれもカルデラ付近と推定されます。

^{おなめだけ}男女岳山頂付近を震源とする火山性地震が2017年7月以前と比較してわずかな増加傾向が認められていますが、1月以降は少ない状態で経過しており、今回の低周波地震発生に伴う特段の変化はみられません。

火山性微動は観測されていません。

・噴気など表面現象の状況（図2-①、図3）

東北地方整備局が設置している監視カメラによる観測では、女岳からの噴気の高さは30m以下で経過し、これまでと比較して特段の変化は認められません。

・地殻変動の状況

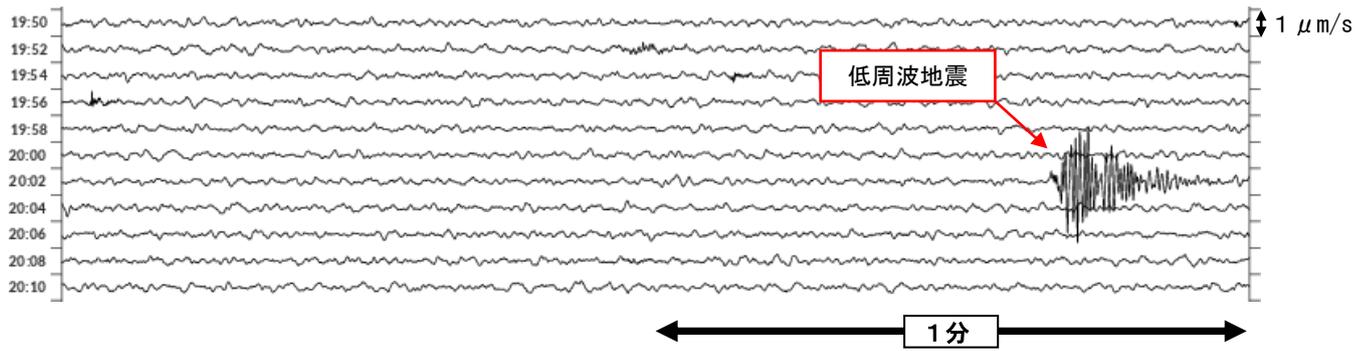
火山活動によると考えられる変化は認められません。

1) 火山性地震のうち、P波、S波の相が不明瞭で、火口周辺の比較的浅い場所で発生する地震と考えられ、主に1～3Hzの低周波成分が卓越した地震です。火道内の火山ガスの移動やマグマの発泡など火山性流体の動きで発生すると考えられています。火山によっては、過去の事例から、火山活動が活発化すると多発する傾向がある事が知られています。

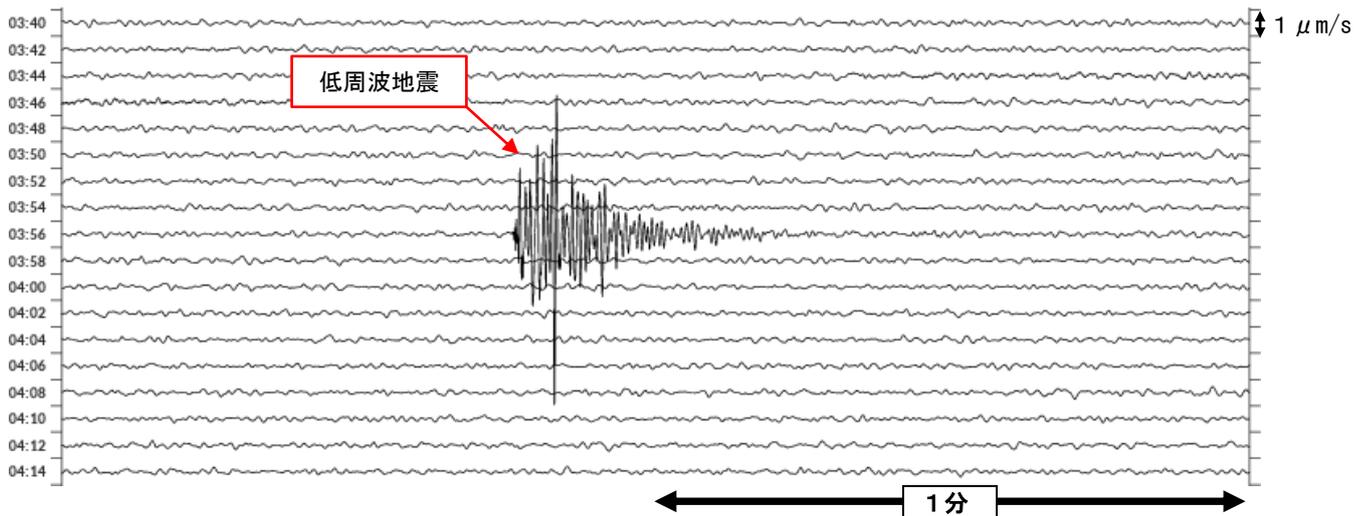
この火山活動解説資料は、仙台管区气象台のホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ (http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院及び東北大学のデータも利用して作成しています。

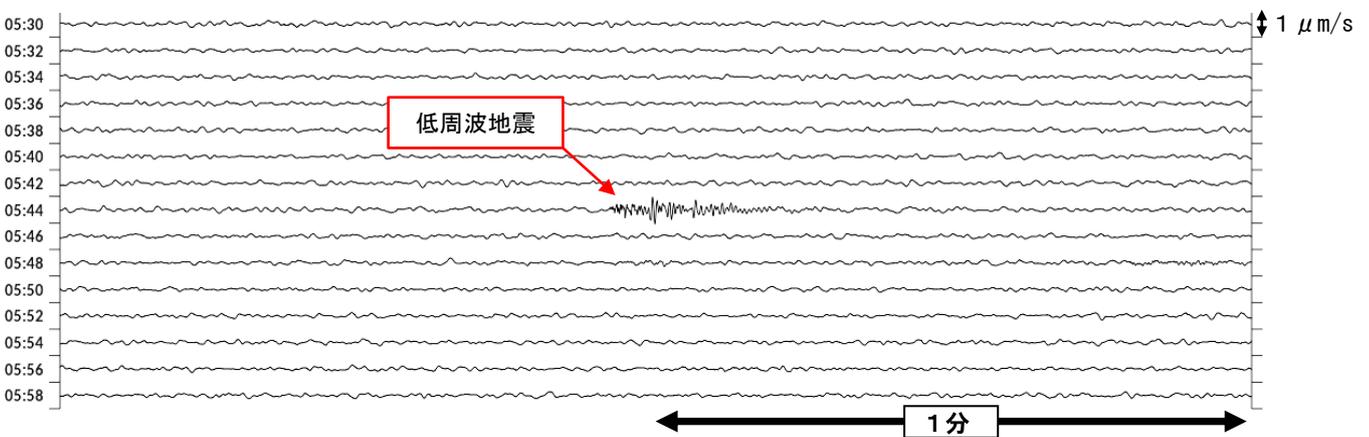
本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。



(2018年3月6日19時50分~20時12分)



(2018年3月7日03時40分~04時16分)



(2018年3月11日05時30分~06時00分)

図1 秋田駒ヶ岳 低周波地震の発生状況 (八合目駐車場観測点 上下動)

- ・ 6回発生したうちの3事例を示します。
- ・ 3月7日03時56分に発生した低周波地震は、6回の低周波地震の中で最も振幅の大きなものでした。

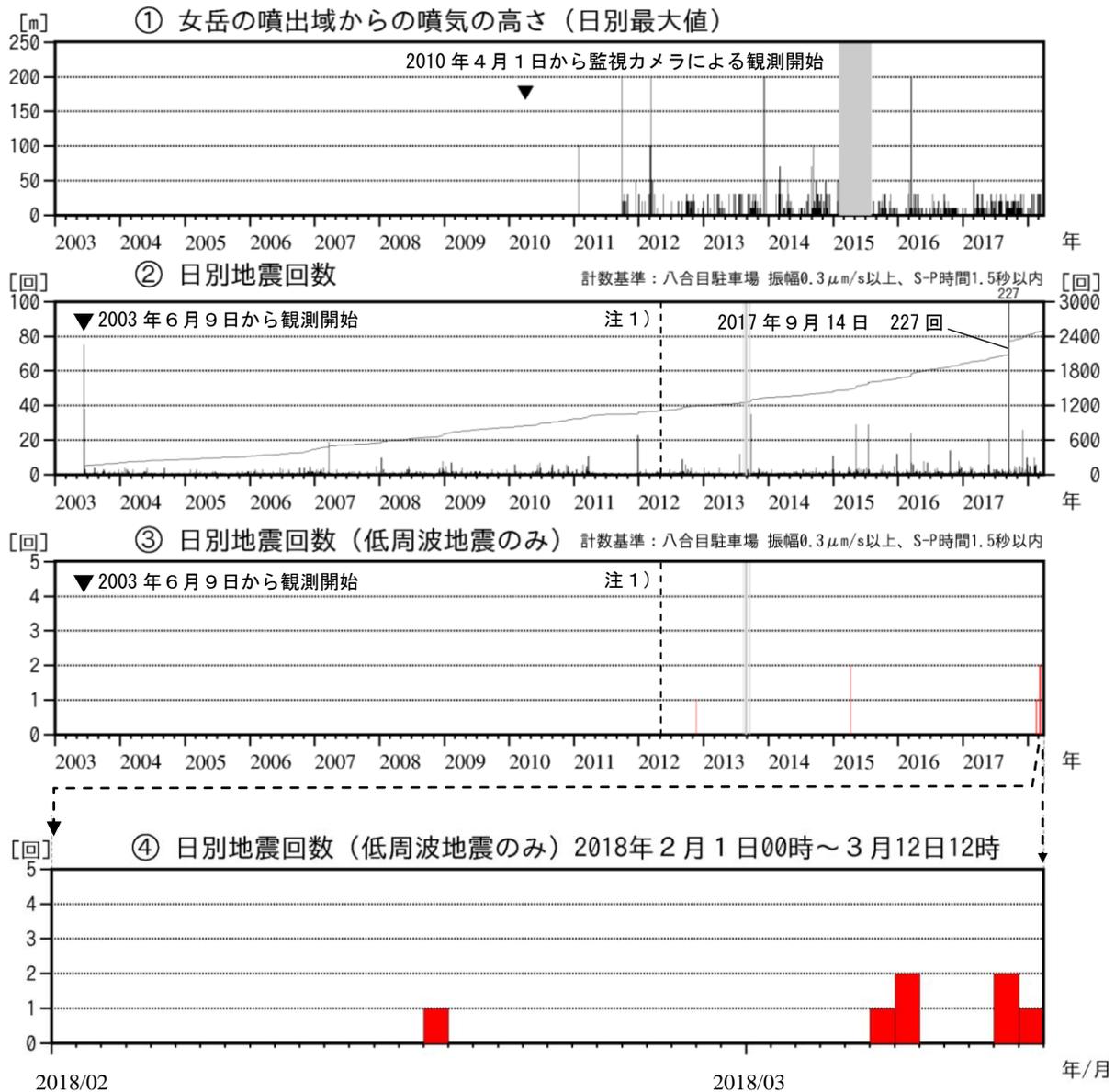


図2 秋田駒ヶ岳 火山活動経過図 (2003年6月9日~2018年3月12日12時)

- ・①仙岩峠(女岳山頂の南約5km)に設置されている監視カメラ(東北地方整備局)による観測です。
- ・①~③の灰色部分は欠測を表しています。
- ・データは速報値を含んでおり、精査後修正する場合があります。

注1) 観測開始の2003年6月9日から東北大学秋田駒ヶ岳観測点を基準としていましたが、2012年4月1日から八合目駐車場観測点を基準としています。



図3 秋田駒ヶ岳 女岳周辺の噴気の状況 (3月11日13時25分頃)

- ・仙岩峠 (女岳山頂の南約5km) に設置されている監視カメラ (東北地方整備局) による映像です。
- ・赤丸で囲んだ部分が女岳からの噴気で、高さは30mです。

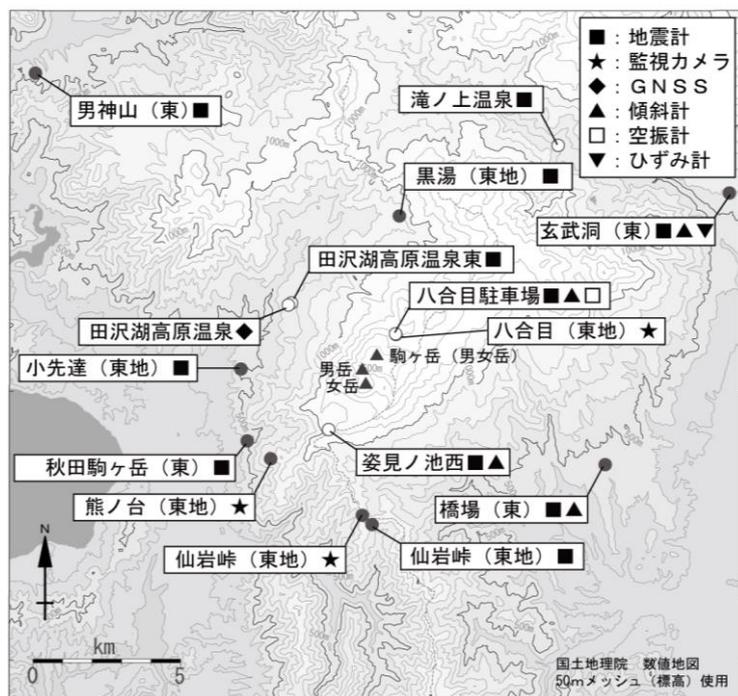


図4 秋田駒ヶ岳 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点の位置を示しています。
 (東地) : 東北地方整備局 (東) : 東北大学